

「東日本大震災」による会堂等被害の補修について

統括主任 飯塚拓也

震災発生より2か月がたとうとしています。震災からの復興にはまだまだ時間を要しますが、地震を機に変わってしまった生活のリズムは戻りつつあるように思います（私自身も、少し気持ちの落ち着きがでてきたように感じています）。

一方で、東北・奥羽へのボランティアの必要性は継続しています。連休中は大勢のボランティアが集まったと聞いていますが、連休後のボランティア提供に心配をしています。ぜひ、お気持ちのある方はボランティアに参加くださいますようお願いいたします。

さて、関東教区内の被災された教会の建物等の補修について、支援員会では「会堂等補修の流れのご案内」をまとめました。これは、大宮教会教会員の松下充孝氏にご協力いただいた「建物調査（簡易診断）」の結果を受けて作成したものです（松下氏による「簡易診断」のご案内を、近く教区内のすべての教会・伝道所に出させていただきます）。紹介しましょう。

＜地震によって建物に被害が出たのですが、どうしたらいいのでしょうか？＞

- ①地震によって建物に被害が出た際には、補修工事をするかどうかも含めて、教会として再建計画を立ててください。

この再建計画を立てる際にも、要望があれば、松下さんに助言いただけます。

- ②補修をしない場合や、自己資金で補修をする場合でも、補修の概要等をお知らせください。

教区として、被災状況の全体を把握する必要があるためです。

- ③教区教団の援助を受けて補修をする場合は、教区と相談の上進めてください。

再建計画と同時に資金計画を立ててください

被災の状況によっては、精密診断を受ける必要があるでしょう。

精密診断からは、再建計画の中に入ります（診断にかかわる費用が発生するという意味です）。

精密検査に関しては、簡易診断との連続性からは、できる限り松下設計にお願いすることがスムーズだと思います。ただし、教会としてお願いしたい方がおられるのであれば、それを妨げるのではありません。

- ④教区として、補修のための支援費用の全体像をまとめた後、再建募金を教団へお願いすることとなります。

申請がすべて支援されることを目指して、教団と連携して取り組みたいと願っています。

*なお、会堂共済に入っている教会は、早めに教団にご連絡ください。

*また、会堂の立て直し等大規模な再建工事は、教区も再建計画に加わらせていただきたいと思います（役員会などへの出席も含めて）。

エマオへ、そして、エマオから。

加藤久幸

4月13日（水）東北教区の小西望さん（財務部委員長）から電話が入った。東北教区が、被災者支援センターのワゴン車を購入するためネットで探していたところ、条件に合う車が茨城県坂東市にあるとのこと。そこで、私に購入の手続きをしてほしいとの依頼であった。小西さん（東北教区）と連絡をとりつつ、15日（金）業者と会い、18日（月）に購入手続、27日（水）水海道に納車となった。連休が迫っていて、東北教区被災者支援センターでは、この期間に100人規模のボランティアの受入があり、その準備に追われている様子であった。当初は、東京からのボランティアが仙台まで車を運ぶ予定であったが、予定が変更となり、29日（金）、私が支援センター問安を兼ねて仙台まで運ぶことになった。

仙台に向かったメンバーは、加藤輝勢子（水海道）、小林祥人（取手）、山口政隆（農村伝道神学校）と私の4名。余裕をもって出発したが、事故渋滞などがあり、東北教区エマオに到着したのは、約束の11時を大幅に越えた13時過ぎとなった。小西さんは、この日の午後、石巻栄光教会と石巻山城町教会の問安の予定があり、会うことができなかった。しかし、大越美穂さん（エマオ職員）や島香美さん（元・仙台学生センター職員）らと会うことができた。私は、かつて東北教区宣教部委員長だった時期に、教区センター建設計画の初期の段階に関わっていた。館内を案内していただきながら、そのエマオを初めて訪ねる機会が、被災者支援センターの働き場として用いられている、この時こういうふうにしてめぐってくるとは思いもよらなかった。そして、様々のことが鮮やかに思い起こされた。

教団派遣の駐在の野田沢さん（キリスト教友愛会 SCF 主事）に、支援センター車の引き渡しをするとともに、関東教区「東日本大震災」被災支援委員会からの願いをお伝えした。具体的には、東北教区いわき地区への関東教区の支援協力の可能性についての伝言を託し、野田さんにはアジア学院に隣接するセミナーハウス（西東京教区・SCF 所有）の建物診断の協力の意向を伝えることができた。また、今回の仙台行きに関連して、連休中ボランティアを希望する方がおられたが、東北教区でのこの時期の受入は終了していた。思案していると、奥羽教区より関東教区に予定外の依頼があり、4名のボランティアが別のルートで新生釜石教会に向かうこととなった。私たちは、この日しか日程がとれなかったため、エマオでの助言に従って、若林地区や名取地区を見て、帰路に着いた。

今回のエマオに向かう小さな旅は、突然の電話から始まった。自分の都合もあったが、なるだけ、相手の事情に従って（“思い”のままに）、相手のニーズに従って（聞こえる“声”のままに）動こうとした。そして、その途上で、私たちも各々に出遭ったのである。エマオの最新のブログにも、「『エマオ』という場所で」（4月29日～5月4日）、「数々のキセキに触れて」（5月2日）など、「道すがら」起こったことや出会ったことを語り合っている。

実務的な報告というより、自分の“思い”が滲（にじ）みでるような原稿となったことをお許しいただきたい。教区の支援委員会の書記などをしていると、どうしても実務的であることを心掛けてしまうのだが、私たちは、最初の弟子たちと同じく、各々の馳せ場において、知らずして復活のイエスのみ業に参加させられていると感ずるような旅であった。アーメン。

○東日本大震災救援支援募金報告の訂正

NEWS 6号で報告させていただきました以下の教会／伝道所／団体からの献金額が誤っておりました。また、小計、累計額も異なっておりましたことを、お詫びいたします。

訂正 太田八幡教会婦人会 50,000 円、佐野教会 10,000 円、塩谷一粒教会 10,000 円、
埼玉中国語礼拝 10,000 円、小計額 1,335,885 円、累計額 3,859,582 円